

# 大空 (生徒・保護者向け) 59号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和4年1月19日(水)

## コミュニケーションが苦手な人のために

### □本日の概要

- 苦手なことがあり、自分に自信がなくても、それを補完してくれる他者がいることで、自分を少しずつ変えることができる
- 何もかも自分でできなくても、他者に相談したり、頼ったりすることができることも一つの力である。
- 秀でたものがなくても、マイナス思考をせず、プラス思考の行動を心がければ、人は必ず助けてくれる。
- 困難な時こそ、プラス思考が大切である。竹林のように、助け合って支え合いたい。試練が人間力を高める。
- 本日のNFC 感性 自他肯定力 協働力

### □私は挨拶が苦手だ

私は校長をしていますので、立場上、挨拶の機会が結構あります。また、国語科の先生ですので、話をするのが得意なんだろうと言われます。たしかに、生徒の前に立つことには慣れましたが、これも後天的な訓練によるもので、本来の私は大変内気な性格で、人前で話したりするのは今でも苦手です。こう言うと驚く人が多いのですが、本当に得意ではありません。今日は、人前に立ったり、積極的にコミュニケーションを取ることが苦手だった私が、ある先輩の影響で変化したという話をします。

### □何もかも自信がなかった昔

私は小学生の頃から運動が苦手で、嫌いで、本当に弱々しく、引きこもって本ばかり読んでいた子供でした。それでいて、あこがれているのは、自分と真逆のヒーローや冒険の世界でした。空想の世界では私は強いのです。私が小学校の頃は香港のアクション映画ブームで「ブルース・リー」という空手の達人に憧れていました。(君たちは知らないでしょうが、「北斗の拳」のケンシロウみたいな人です。)

中高生になっても似たような状況だったと思います。その頃は、さすがに自分は肉体派のヒーローにはなれないと自覚していました。かといって勉強で頑張るわけでもなく、好きなことしか取り組まず、苦手なことは努力しませんでした。読書は好きですが、推理小説のようなものばかり読んでいて、文学の素養があるわけでもありません。とにかく、これといった取り柄がないのです。当時の私を振り返ると、何もかも自信がなく、それでいて努力もせず、何となく焦っていた気がします。

さて、高校時代、私は将来の職業として先生を考えました。しかし、これは先生として生徒を導きたいという情熱が強かったというより、消去法での選択です。

本ばかり読んでいて社交性が乏しい自分は企業では勤まりそうでない。法律は興味が持てません。一応、国語は好きですが、文学部に進学し、文学者や研究者になるほどの国語力があるわけではない。父親が小学校の教員でしたので、教員という仕事は身近に感じていましたが、運動が苦手でピアノは弾けないので小学校の先生は無理だと考えていました。それなら、中学か高校の先生はどうだろうと思っていたところ、宮崎西高校で魅力的な国語の先生に出会い、本気で高校の国語の先生を志すようになり、教育学部に進学したのでした。(校長通信46号参照)

さて、私は何とか大学に進学しましたが、大学の不親切さには驚きました。自分で質問をしない限り、何も教えてくれません。同級生も全国から集まってきており、浪人していた同級生には2才ぐらい年上の者もいます。優秀な学生も多く、自分で短歌を詠む者や、詩集を出版している者もいたのには驚きました。自分の知識も読書経験も同級生には比べものになりません。私は、またしても劣等意識に悩まされました。同級生にも遙かに劣っている。まして、先輩など、雲の上の存在という感じで、なかなか話しかけることができません。国語科に進学したのは間違いではなかったか。私の焦りは強くなる一方でした。

### □H先輩との出会い

誰かに相談したいと痛切に思っていたところ、H先輩と出会いました。H先輩は、私と同じ教育学部国語科の2学年上の先輩です。(私が入学したときの3年生)住んでいたアパートも近所で、男声合唱団の部長でした。高校時代、合唱部だった私はH先輩の勧誘でその男声合唱団に入部したのです。多くの先輩の中でも、特に親しくなった先輩でした。

H先輩はとにかくたくましい人で、私とは対極にありました。国語科の男子というと大人しく繊細なイメージがあるかもしれませんが、この先輩は高校時代は柔道部で有段者という猛者、筋肉の塊みたいながっしりとした体格です。大学の学費は親から1円の仕送りももらわず、路面電車の車掌のバイトをして学費を稼ぎ、食事は自炊。いつも貧乏で、ファッションはいつもジャージにTシャツ、冬はどてらを着ていました。さらに男ばかり90人もいる合唱団の部長で、練習方針等で意見が割れるときも徹底的に議論して全体をまとめるという、リーダーの見本みたいな先輩でした。

ただ、H先輩は、学業面で真面目な学生とは言えなかったかもしれません。路面電車の車掌のバイトは朝が忙しかったため、1コマ目の授業はバイトの都合で遅刻気味。大学の取得した単位は卒業ぎりぎりだったと思います。それでも、厳しいと定評のある教授の演習を

選択したり、何日も徹夜でレポートを書いたりしたりして、学業面でもチャレンジしていました。何となく人を惹きつける力を持っているんですね。同級生や下級生がH先輩の勉強を助けてくれるのです。私も、勉強やプライベートなことまで、様々な悩みを相談したりして、一晩中語り明かしたことが何回もありました。H先輩は大学卒業後、広島県の定時制高校の国語の教員になりました。H先輩は生徒に寄り添いながら、様々な実践に取り組んでいると聞いていました。

数年前、私はこのH先輩と、ある会議で30年ぶりに再開しました。H先輩は、広島県の県立高校の校長先生になっていました。その頃はコロナの前でしたので、まだ全国的な大きな会議が開催されていたのです。私は、東京で開催された全国校長会という会議に参加したのですが、その時、H先輩と偶然再会しました。H先輩は、30年前と全然変わっておらず、相変わらずエネルギッシュでした。話を伺うと、H先輩の勤務する高校は、瀬戸内海の島にある高校で、生徒数減少のために統廃合目前です。その学校を救うべく、校長として先頭に立って職員や生徒を鼓舞していました。NHKの朝のニュースでその奮闘ぶりが紹介されるくらいの、広島県の名物校長先生になっていました。

「川越、お前も変わらんのお、お前も校長か、わしと似たようなことしよるのお～、お互いがんばらにや、いけんう」と広島弁で熱く語る先輩の話の聞いてみると、私は、大学生の時の国語教育への熱い思いを思いだしたような気がしました。そして、H先輩に励まされ、自分も頑張らなければならないという思いを新たにしたのでした。

## □異質な他者の与える影響

私とH先輩はタイプが全然違います。H先輩は、私にないものを沢山持っています。しかし、私には、私なりの長があります。若い頃は、私は自分に自信がありませんでした。そのため、「あれができない、これができない」というマイナス面ばかりを気にしがちでした。でも、人には得手不得手があり、何でもできる人とか、完璧な性格などありません。自分に不足しているものや、自分の短所を自覚した時、それを持っている人を見つけたり、他者から自分を補ってもらえるようになることも、ある意味で一種の力ではないでしょうか。これは「相談力」とか、「頼る力」と言ってもいいかもしれません。

幼い時から比べると、私は大きく変わりました。H先輩のような人と交流するうちに、無意識のうちに色々な影響を受けたと思うのです。H先輩に限らず、自分にはないものを持っている人が世の中には沢山います。その人達を知り、その人達の生き方を直接・間接的に知ることは、やはり私の生き方に何らかの影響を与えてくれました。自分と違う人を対立的に見るのではなく、異質な人と交わり「共生」することは、生き方を豊かにしてくれたと思います。

## □コミュニケーション力の重要性

世の中には極端にフレンドリーで、人を惹きつける力を持った人もいます。例えば、中村文昭さんという実業家は、高校卒業後、野菜の行商から飲食店業界に進出、今や六本木などに店を持つ人で、全国で講演活

動をしています。この人は出張で新幹線に乗ると必ず偶然隣の席に座った初対面の人と友達になり、知人の和を広げるということを楽しみにしているそうです。この人は一文無し同然の状態から、多くの人に助けられ、会社を興すのですが、世の中にはこんなに人を巻き込む力を持つ人もいます。また、NHKの「家族に乾杯」に出演している笑福亭鶴瓶さんなども、誰の懐にでも飛び込んでいき、初対面の人でもすぐに打ち解けます。このように、会社を起し急成長させたり、活躍しているタレントなどにはこんな才能を持つ人もいます。誰もが同じことはできないでしょう。少なくとも、私は苦手でした。だからといって、自分にはない能力をうらやんでいても自分が成長する訳ではありません。でも、積極性や行動力のある人が自分の身近にいと、知らず知らずのうちに影響を受けます。自分が超積極的にはならないにしても、クラスの隣の席の友達にちょっと話しかけることぐらいは、ハードルが低く思えてきます。鶴瓶さんみたいな人が友達にいれば、一緒にいるだけで、自分も世界が広がりますね。（「家族に乾杯」で、鶴瓶さんと一緒に旅をするタレントがその立場ですね。）自分に力があるとすれば、自分にはない能力のある人とうまく付き合い、助けてもらう力があつたのかもしれない。つまり「頼る力」です。これもコミュニケーション力の一種かもしれません。

私は話すのが苦手なので、相手の話を聞くようにしています。そして、面白いことが言えないので、せめて良い言葉だけを使うようにしています。そして、何事も否定せず、何事にも価値を認め、強引にでも、常にプラス思考をしています。そうすると、コミュニケーションが苦手な私でも、今まで何とかなってきました。

## □プラス思考の勧め

プラス思考といっても、簡単ではありません。「苦しい」「悲しい」という感情を持つなという意味ではありません。「苦しい」は感情ですが、その状況の中でどうするか、というところは考え方です。思い通りの結果がでなかったとき、人はどうしても落ち込みます。しかし、そのような状況でも、何とか前向きに挑戦を続ける人もいます。困難な状況の中で、前向きな考え方をするという事は簡単ではありませんが、困難は自分を成長させる試練だと受け止め、前向きに立ち向かって欲しいものです。

私は、多くの生徒が、試練に立ち向かう姿を見てきました。試練を乗り越えた生徒もいれば、努力が報われなかった生徒もいます。しかし、試練に立ち向かったという事実は、結果を超えて、その人の人生を支えると思うのです。

また、困難な時こそ、人に頼る時です。巨木のように一人で逞しく生きる生き方もありますが、竹林のように群れをなし、助け合って少しずつ仲間を増やすと、どんな強風にも折れることなく、しなやかに受け流すことができます。落ち込みやすい人は、ポジティブな人と話しましょう。違う考え方を持っている他者が、違う世界を示してくれるかもしれません。

試練が人間力を高めます。前へ進みましょう。